【 89 】

氏名	中　込　　直
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第 1326 号
学位授与の日付	昭和57年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**乳児先天性股関節脱臼の保存的治療成績** **――いわゆるロレンツ法とリーメンビューゲル法の比較――**
論文審査委員	教授　寺本　滋　　教授　折田薫三　　教授　村上宅郎

学位論文内容の要旨

岡山大学医学部整形外科において加療した先天性股関節脱臼例（先天性股関節亜脱臼を含む）のうち，昭和30年1月より昭和32年12月までの3年間に生まれ，生後6ケ月以内にいわゆるロレンツ法で加療した症例97例125股と，昭和38年1月より40年12月までの3年間に生まれ，生後6ケ月以内にリーメンビューゲル法で加療した88例102股を比較検討した。

その結果①臨床的にリーメンビューゲル法で加療した症例の成績は優れていた。②解剖学的にもリーメンビューゲル法はロレンツ法よりも成績が優れており，変形股においてもその関節適合性が優れていると考えられた。③ロレンツ法での変形股は臼蓋側よりも骨頭側の障害因子が強く，リーメンビューゲル法での変形股は臼蓋側の障害因子が強いと考えられた。④リーメンビューゲル装着中，成績不良例ではなんらかの愁訴・異常を認めたが良好例ではその発生頻度は低くかつ症状は軽度であった。

論文審査の結果の要旨

本研究は先天性股関節脱臼の治療に関する臨床的研究であるが，乳児期に保在的療法として行なわれたロレンツ法とリーメンビューゲル法について遠隔成績より比較検討したものであるが本疾患の治療上重要な知見を得，価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。